富嶽百景

二篇

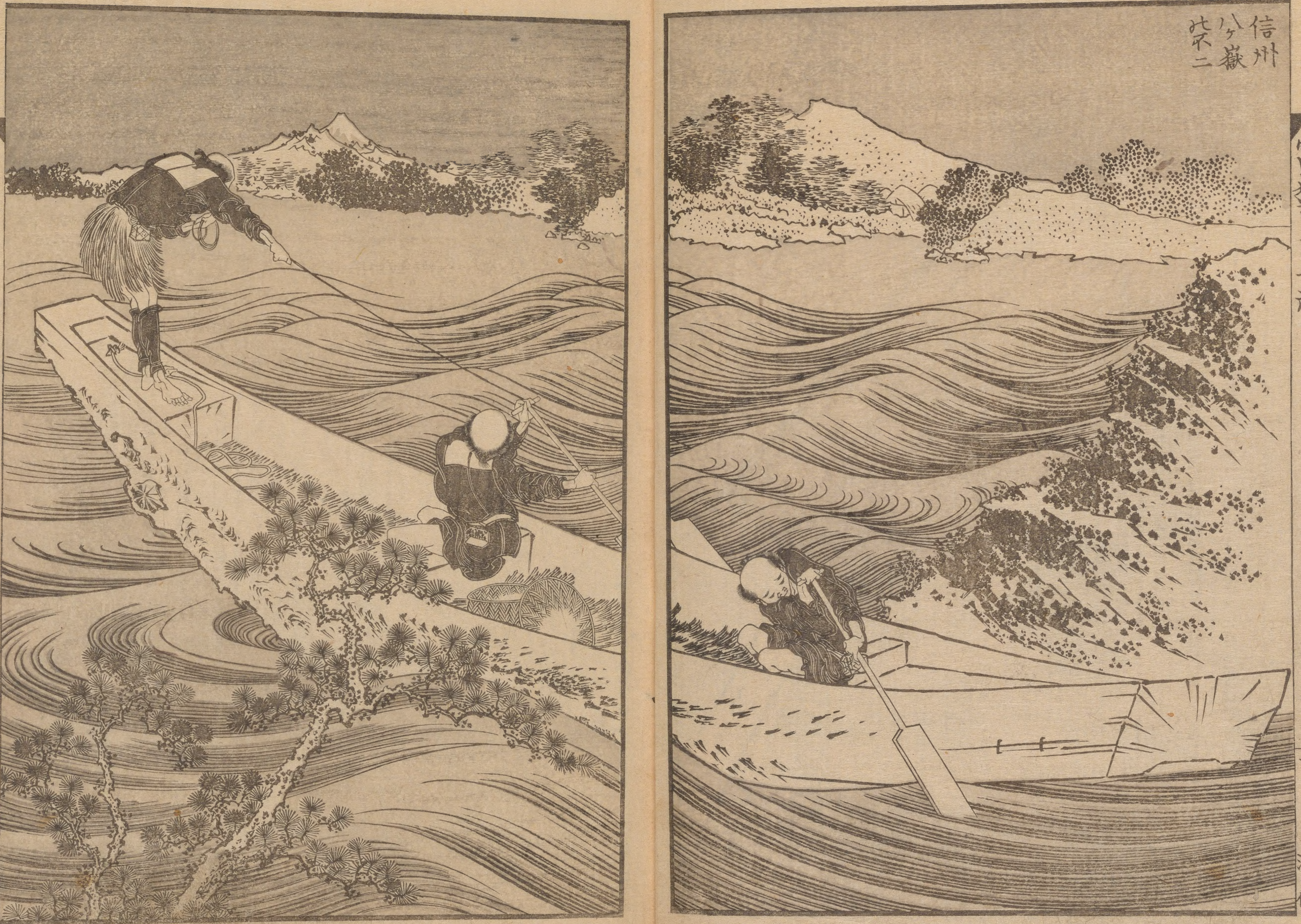
154

富士之為山也其形若削玉其色若
磨銀無冬而無夏不峙不傾面面玲
瓏如芙蓉之出水而高踞群嶽之
巔是之乎所以尊矣也蓋夫朝暾
映而皎潔夕陽落而蒼翠欲滴
變其色盡其實其諸望之而春烟
秋風雲霞所織則其景百變之矣

富嶽百景二編

成鄰堂

北斎翁嘗圖百景于精工之畫
百變之妙觀此畫一可見矣
天保六乙未正月
盧山孝

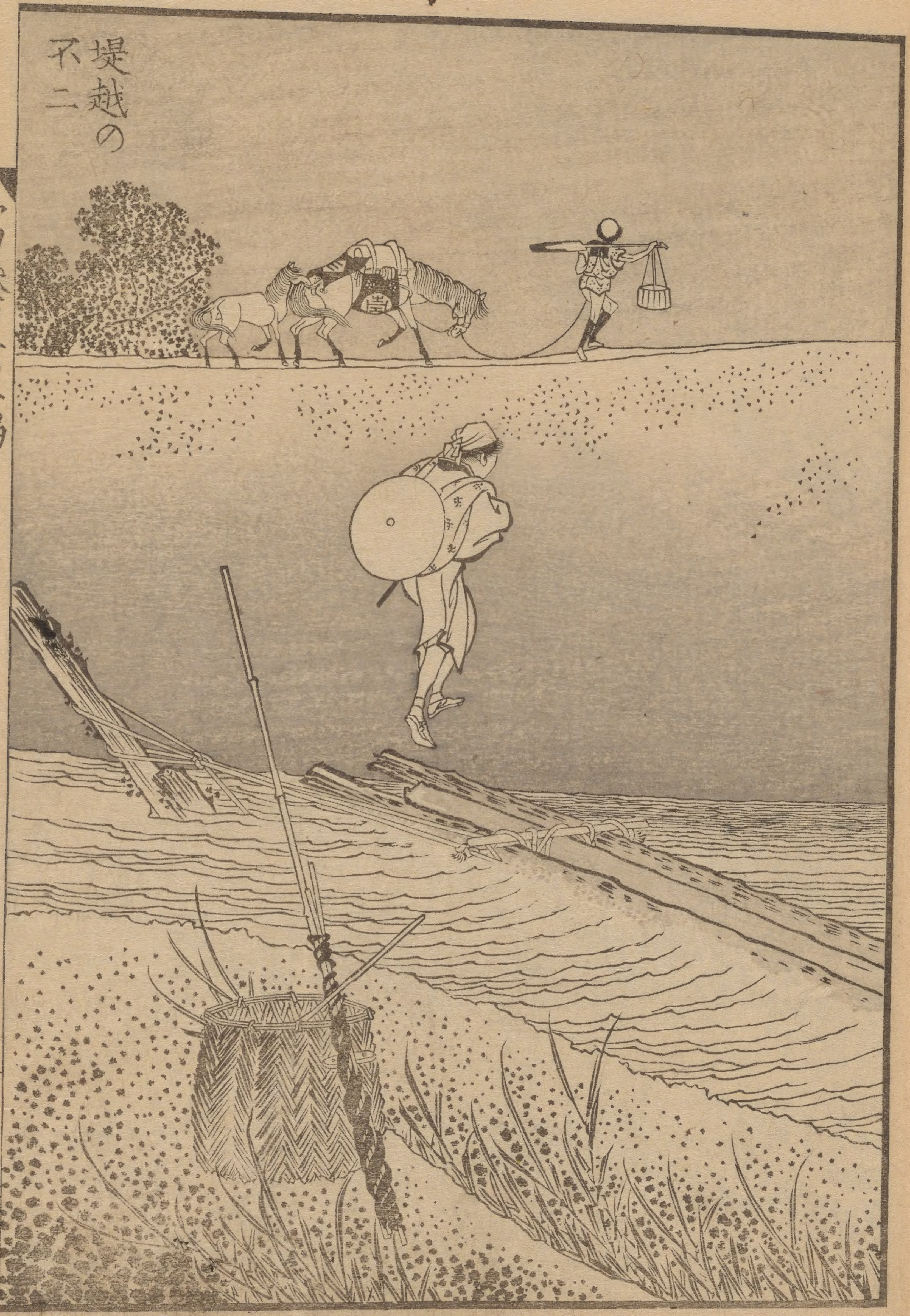


江仙

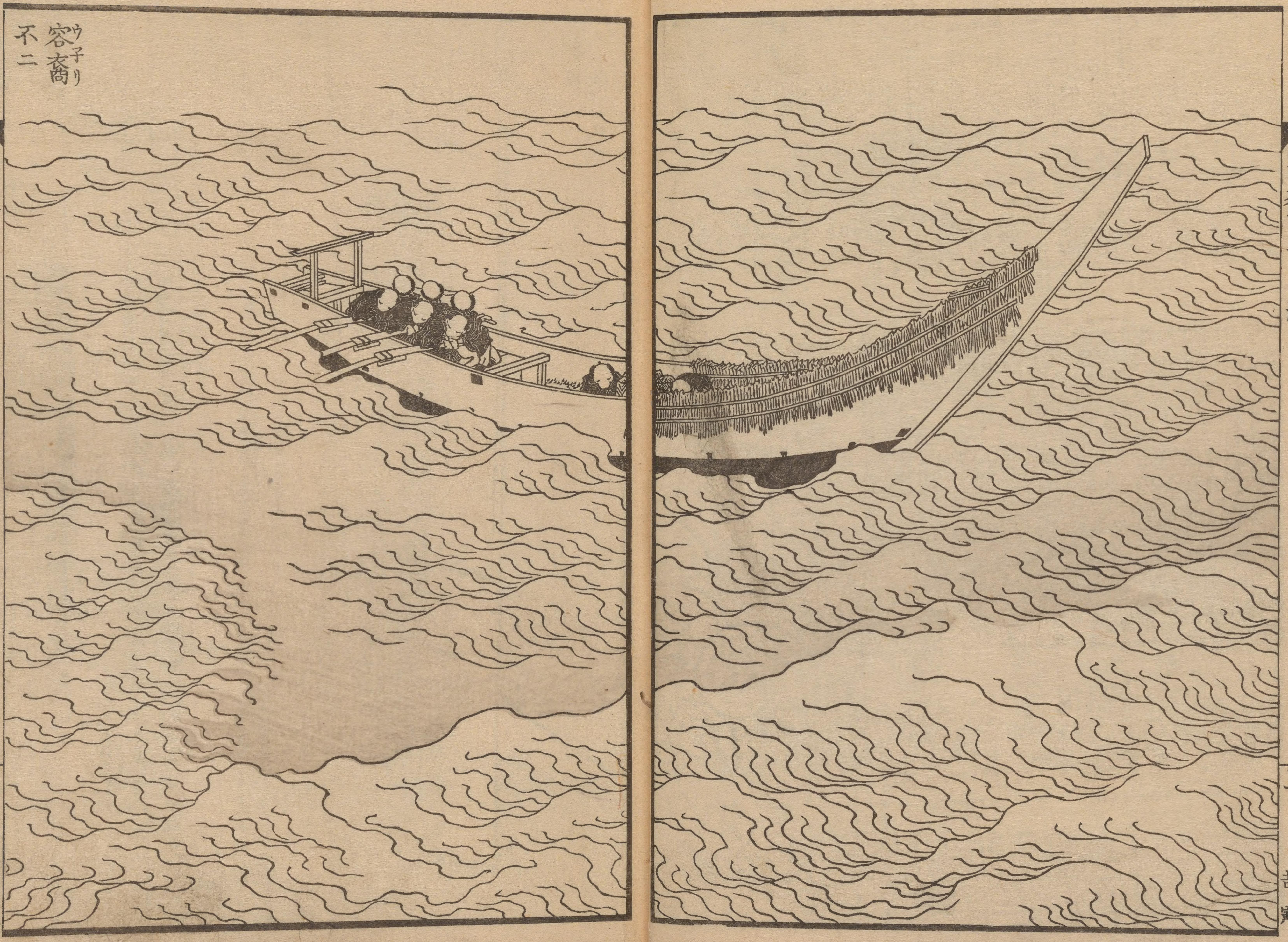
竹林の不二

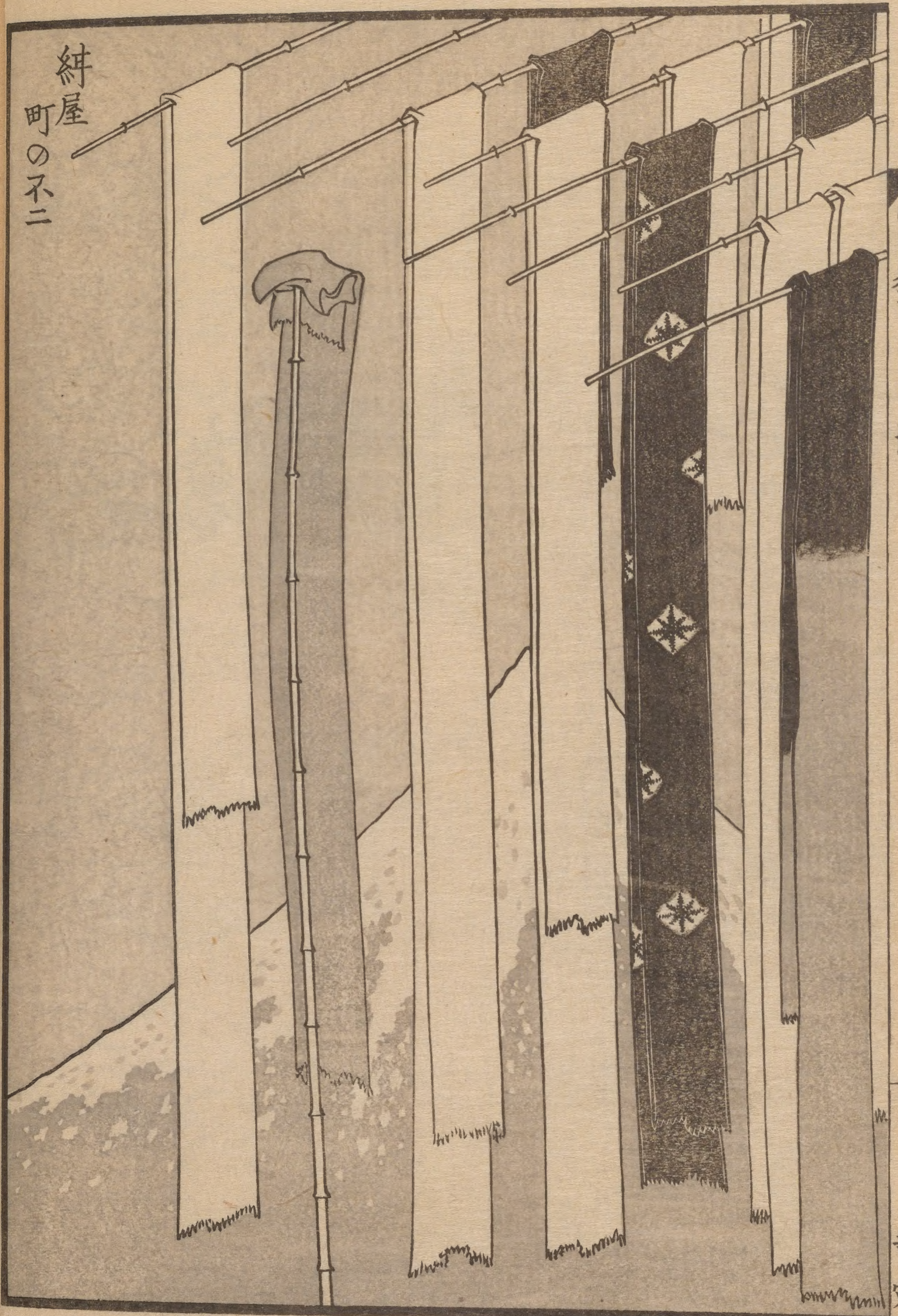
江仙

堤越の不二



登龍の不二

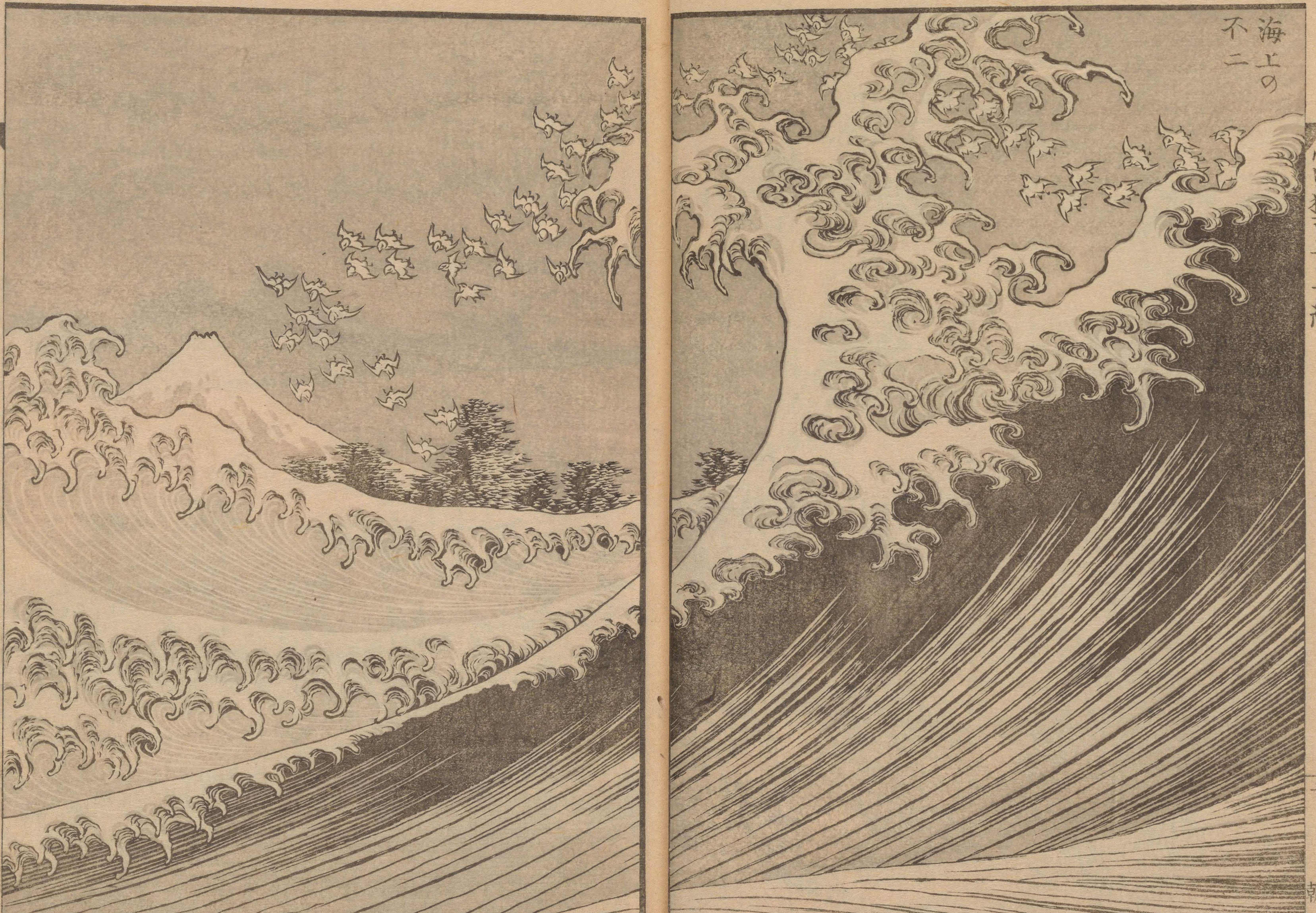

容裔（ウ子リ）不二



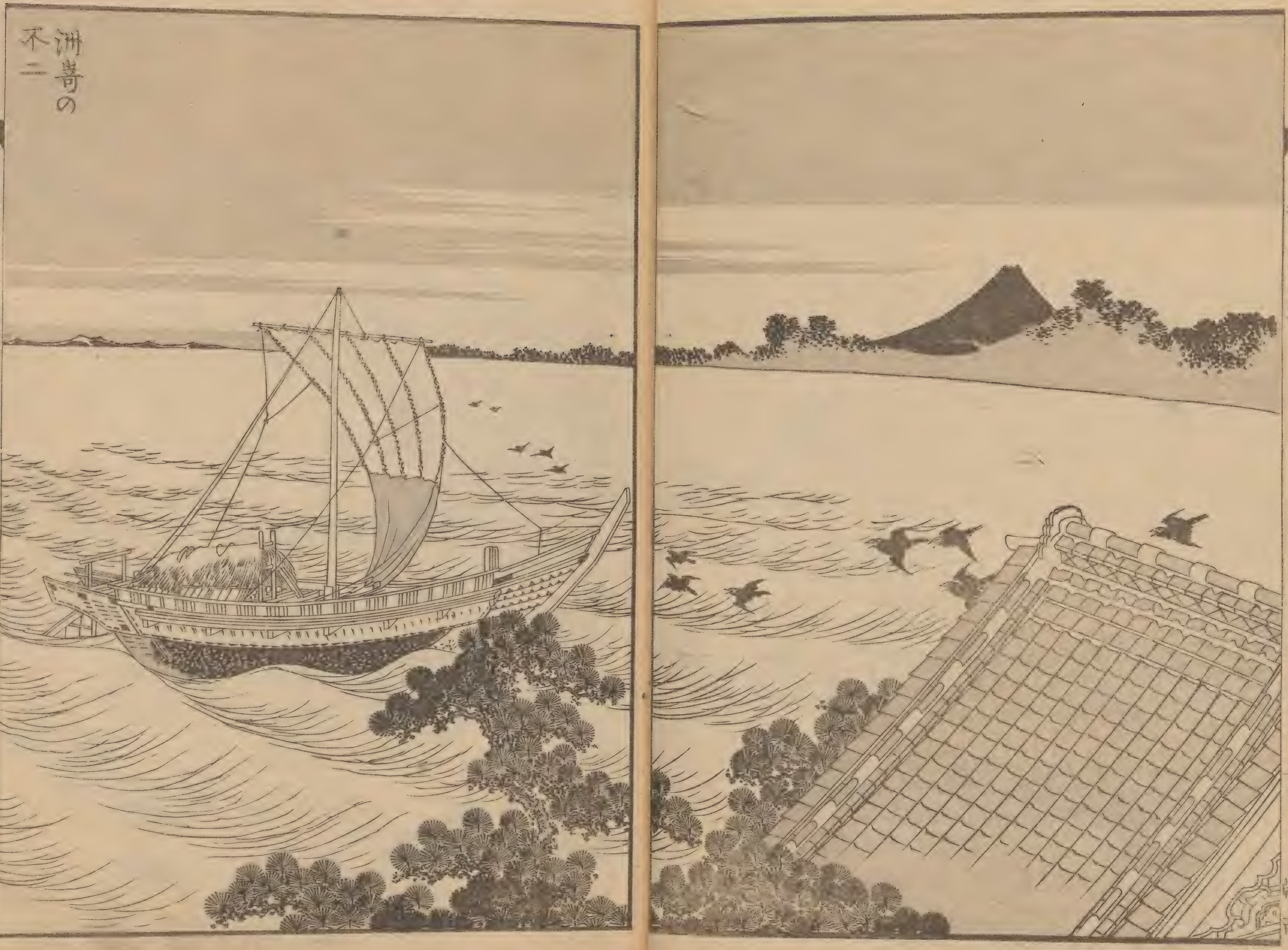
紺屋町の不二

吉寅

盃中の不二



海上の不二


洲﨑の不二

夢の不二

朝
百

掛物の發端

三白の不二

不二の室

松越の不二

寫真の不二

七橋一覧の不二

大石寺み
山中の不二

梅林

不二の麓

夕立の不二

遠江山中之
不二

筧の不二

月下の不二

富嶽百景二編

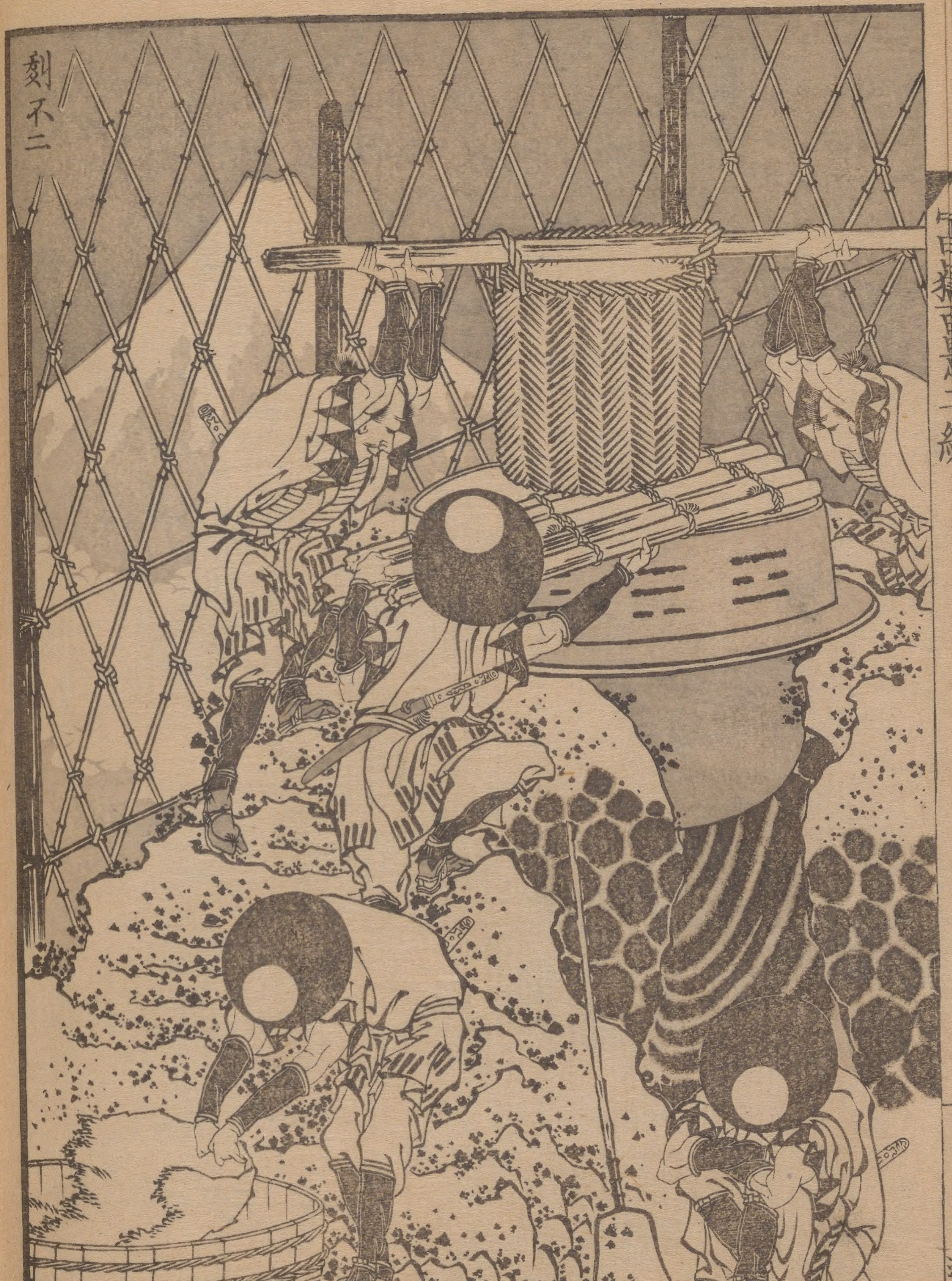
雪の旦の不二

吉寅

吉寅

武邊の不二

窻中ノ不二



刻不二

谷間の不二

七十六齢

前北齋為一改

画狂老人卍筆

己六才より物の形状を写の癖ありて半百の比より数〻画図を顕すといへども七十年前画く所は実に取るに足ものなし七十三才にして稍禽獣虫魚の骨格草木の出生を悟し得たり故に八十才にしては益〻進み九十才にして猶其奥意を極め一百歳にして正に神妙ならん歟百有十歳にしては一点一格にして生るがごとくならん願くは長寿の君子予が言の妄ならざるを見たまふべし

画狂老人卍述

剞劂　江川留吉

五常亭

冨嶽百景　初編既行　二編近刻　三編全

名橋百景　近刻

異草百花撰　近刻

百家奇術　同

狂画草筆百眼　同

百壽百福　同

繪本肉筆畫帖

大和志み為彩色　初編

極草筆　二編

人物純筆　三編

前北斎為一改

画狂老人卍筆

漁家百景　近刻

圓方長短一百自在圖會　近刻

月下百景　同

百馬百牛　同

農家百景　同

百禽百獸　同

天保六乙未年春三月發行

書林

尾州名古屋　永樂屋東四郎

江戸麹町四丁目　角丸屋甚助

仝馬喰町二丁目　西村與八

仝　西村祐藏